



アリはどうしてちい小さいの

アリはおお大きくなれない

アリは、いちばんおお大きい種類しゅるいのクロオオアリなどでも、13ミリメートルくらいです。小さい種類しゅるいになると、体全体からだぜんたいの長さながが、2ミリメートルにもならないくらいのももいます。

アリは、こんちゅう虫の仲間なかまです。アリの体からだには、背骨せぼねはありません。体の外側そとがわをおおう皮ひふのかわりかわりをしている部分ぶぶんが、かたくて骨ほねの役目やくめをかねています。こういうつくりつくりの生き物いきものは、あまり体からだを大きくおおすることができません。魚さかなやトカゲ、イヌなどのように、体からだの中に骨ほねがないと、体重たいじゅうをささえて動き回うごまわることができないのです。

大きくなれば、体からだをささえるしくみがいる

たとえば、うすい紙かみで作った箱つくに水みずを入いれると、箱はこが小さいうちちいはいいのですが、箱はこが大きくなおおって、中なかの水みずの量りょうがふえると、重おもさをささえきれなくて、ふにやっまと曲まがってしまいます。厚あついがっちりした紙かみなら、少し大きくなおおってもささえられます。カブトムシなどは、がっちりしたよろいかわのような皮かわで、体からだをつつんつでいますから、あそこまで大きくなおおれるのです。でも、あまり大きくなおおると、体からだをささえる手足てあしにも、筋肉きんにくや骨ほねが必要ひつようになってきますから、特別とくべつ、でっかいカブトムシというものも、いません。

小さいと便利べんりなことも多いおお

アリは小さいために、食べ物たものが少すくなくてすむとか、土つちの中なかで巣すを作るのも小さいトンネルちいですむ、卵たまごから親おやになるまでの日ひにちが短みじかいなど、生きていくのに便利べんりなことも多いおおのです。(監修・中山 周平)

